

# 森林環境教育 インフォメーション

## 林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

〒085-0825 釧路市千歳町6-11 (05.09.15 NO.3)  
TEL 0154-44-0533 FAX 0154-41-7305

当ふれあいセンターは国有林をフィールドとして北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取り組むNPO等の活動支援や森林環境教育等のフィールドの提供、技術指導などを支援しています。主な活動区域は釧路湿原上流域で弟子屈町、標茶町、鶴居村、阿寒町、厚岸町、釧路町の国有林です。なお、活動区域以外においても必要に応じ活動します。

## 8月9月の森林環境教育

8月24日(水)

◎ 鶴居村立鶴居小学校 6年生 (藪本先生)

6年生のクラス16名に対して教室内で「地球温暖化と森林」について、光合成の話、森林は二酸化炭素を吸収している等の役割について行い、実際に校庭内にある樹木の名前や特徴、胸高直径を測って炭素の固定量の調査を行いました。子どもたちの感想から、『木を測った事が一番の印象として寄せられ直接、木に触れ環境問題(温暖化)や身近な木について関心が深まったと思います。』



8月27日(土)

◎ 京都大学フィールド科学教育研究センター(北海道研究林)学生実習

京都大学の実習「道東の植生と林業」の中で霧多布湿原、パイロットフォレストの視察に同行し道東林業の特徴、パイロットフォレスト等についての説明を行いました。

当日は台風の影響が懸念されましたが、パイロットフォレストに向かう頃には天候も回復し、望楼からのカラマツ造林地の遠望に学生たちは、しばし感動していました。

今後も森林科学を学ぶ学生たちの教育の場、森林・林業を含む自然環境等を学ぶ機会として継続して協力していきます。



(望楼)

8月31日(水)

◎ 厚岸町立上尾幌小中学校 職員技術研修(7名)

校長先生を含めた職員技術研修(ミズナラの巨木のある標茶町国有林で開催)において、授業で子どもたちに学習してもらいたい森林の役割等についての説明を行いました。

9月5日(月)

◎ 釧路市立柏木小学校 職員校内研修(16名)教育実習生4名含む

「地球温暖化と森林」をテーマに温暖化の原因、樹木が二酸化炭素を固定することなどを講義し、実際に校庭と春採湖の遊歩道を使い樹木の名前や特徴、草木について実施しました。

先生たちから今後、総合学習等での授業で役に立てたいと力強い言葉をいただきました。センターとして今後も、協力していきます。

別紙(教務部だより・柏木小学校)



9月10日(土)

◎ 釧路市ことばを育てる親の会(言葉や聞こえが不自由な子どもを持つ親の会)

釧路市内の言葉の教室(旭小、桜が丘小、鳥取小)に通学している子どもを持つ親が学校と協力して実施した親子交流会にふれあいセンターが参加しました。みんなで標茶町国有林の巨木を見学し、14人の子どもたちが手をつないで木の大きさを実感するなど、普段の生活では感じることがない森林の雰囲気を楽しみました。その後、輪切りにした円盤に絵を描いて自分だけの特製コースター作りを楽しみました。

センターでは、今後も様々な機会を捉えて、森林や木の良さなどを伝えて行くつもりです。



## 遅くなりました。 < < > >

5月に各市町村の校長会でお願いをした「森林環境教育」のアンケート結果についてお知らせします。

### 1 現在、学校でやっている各種環境教育はどんなことですか。

海辺の生き物、学校周辺の野草調べ、虫取り飼育、野鳥観察
各教科の中で環境教育を位置づけ学習活動を行う。
古紙、リングプル回収、総合的な学習における環境問題の学習
海岸清掃、通学路清掃
リサイクル(牛乳パック)、節電、野外観察
学校周辺の池、公園の植生の観察、清掃活動を通して、環境教育
学校版ISO(ゴミ、資源、電気、緑を増やす)
地域の清掃活動、用紙類の再利用、植樹(卒業記念)
登山や水源地の見学等の体験活動を通じて自然を学ぶ取り組みを実施。
ISOへの取り組み、廃油石けん作り
春採湖での総合学習(クリーン大作戦、植樹等)
総合学習(釧路湿原、タンチョウ)をおこなっている。
総合的な学習で身近な環境調査
コスモス街道作り、プルタブ回収、地域清掃活動
塘路湖、釧路湿原など、身近なフィールドを使った学習
生物どうしの関わり(わたしたちと自然環境)
苗木づくり(4, 5, 6年生)通学路清掃、植樹(地域・校庭)
自然探索、水やゴミ・水産業と森との関わり
動植物のお互いの関連、リサイクル、身近な生活における環境活動

### 2 環境教育を行うときの問題点がありますか。

指導者がいない。解らないものを調べる手だが、ネットや書物ぐらいである。
環境教育に関する認識が薄い、指導者がいない。
常時かかわるフィールド不足
野外の植生を調査するときに、知識を持つ指導者が少ない。
環境教育という内容の広さ、目的づくりの難しさ。
移動のための手段で困ることがある。
活動内容が固定化しマンネリ傾向にある。
資料が少ない(図書館が遠い)
フィールドがない。子どもたちにわかりやすい資料がない。
野外活動の際、目的地までの交通手段
専門的知識不足で子どもたちに大まかしか伝えることしかできない。
校区外での活動の場合の費用の問題、専門的な知識情報の不足。

### 3 ふれあいセンターが授業の中でお手伝いをするなら何をしてほしいですか。

- ア 森林教室(屋内) (8件)
- イ 森林教室(野外) (11件)
- ウ 体験林業(植樹、下刈、間伐等) (5件)
- エ 木工教室 (8件)
- オ その他 (校庭の樹木の名前、環境プログラムの提供、森林、湿地、海との連携)

### 4 その他、ガイドブック、ふれあいセンターに対する意見・要望等

- ◎参考になる書籍、HP等教えてほしい。
- ◎アメリカの小学校との交流テーマ(樹木)について指導をお願いしたい。
- ◎センターで出来ることをもっと教えてほしい。
- ◎低学年向けの資料を作成してほしい。
- ◎ガイドブックの説明文の文字が大きいと良い。
- ◎樹木スケッチの見本として活用できる。森林のことを子どもたちに教えてほしい。

これらのアンケート結果を踏まえ、少しでも森林環境教育のお手伝いが出来ればと考えています。また、お忙しい中アンケートにご協力いただいた各小中学校の先生にお礼申し上げます。

## 今後の『出前・森林環境教育』予定

- ◎9月26日(月) 釧路町立知方学小学校 森林環境教育(全校生徒)
- ◎9月29日(木) 釧路市立柏木小学校 森林環境教育(4年生・30名)

今後もふれあいセンター活動等に対して「ご意見ご要望等」有りましたらお寄せ下さい。